

待つ



様子を見ても大丈夫
通常の診療時間内に
受診しましょう

- 水分や食事がとれている
- 熱があっても普通に睡眠がとれる
- あやせば笑う、遊ぼうとする
- それほど機嫌は悪くない、顔色も悪くない
- 薄着にすると機嫌がよくなる

行く



救急外来を
受診しましょう

- 生後3か月未満で、38℃以上の熱がある
- 水分を受けつけない、おしっこが半日くらい出ない
- ぐったりしている
- 下痢や嘔吐をくり返している
- けいれんを起こした
- 顔色が悪く、あやしても笑わない
- 眠ってばかりいる（呼びかけてもすぐ眠ってしまう）
- 激しく泣き、あやしても泣きやまない
- 夜も眠らず機嫌が悪い
- 呼吸がおかしい（不規則、胸がペコペコしぼむ、鼻の穴がヒクヒクする）
- 熱が出る前に、高温・多湿の場所に長くいた（熱中症の可能性がある）



注意すること

熱があっても元気そうだったら、解熱剤は使用しないようにしましょう。

（解熱剤は、数時間症状を抑える対処療法薬で、病気の原因を根本的に治す薬ではありません）

38.5℃以上で、食欲がなく、頭痛などがあってつらそうな時、眠れない時などに、5～6時間以上の間隔をあけて、1日3回までを目安に使います。

使用にあたっては、処方の際の指示に従いましょう。

※小児への解熱剤の成分として、国際的にその使用が推奨されているのは、アセトアミノフェンです。

※解熱剤の座薬の使用期限は、処方されてから1年が目安です。